

令和 6 (2024) 年度日本歴史研究専攻授業計画

授業名	信仰伝承論 Japanese folk religion, faith, and history of cultural exchange		
担当教員	松尾恒一		
授業概要	列島の諸地域で活動する民間宗教者について、その祈禱を中心とする祭儀や、神霊と交換し得る身体を獲得する修行や成巫の過程について考える。仏教・陰陽五行思想等、祭儀の上で大きなウェイトを占める外来の宗教・思想にも注目して、東アジアの視点から日本の民俗宗教を考える。先行研究についての検討を踏まえ、現代社会に伝承される意義をも探求する。受講者は研究テーマと関連する事例について報告を行い、これに対する討議を中心に授業を進めて行く。		
教育目標・目的	日本人の神霊観念とその実践としての祈願の方法について、歴史と伝承を考える。地域の共同祈願と関わって地域統治にも関与するケース（琉球地域のノロ・ツカサ等）、あるいは、病気治療等、個人によって解決困難な問題について、祈禱師的な民間宗教者が祈願・呪術を行うケース等を分けて分析する視点より、彼らの神霊と交流し得る能力獲得の過程や、その実践としての言葉・行為・モノ（祭具等）について、地域の信仰との相関関係に留意しつつ考える。民間信仰、民俗資料についての歴史資料（古記録・絵画・祭具等のモノ資料）等一次資料、及び民俗報告書等の一次資料に準ずる資料に基づいて、民俗宗教を通して、地域の伝統的な、居住地域の自然環境にも注目しつつ生業・生活の全体を論じ、レポート・論文としてまとめて提出することを目標とする。		
成績評価	・平常点:講義における、自身の研究テーマについての研究発表、及びディスカッション 30% 受講者のレポート 70%。論文、または調査報告書に相当する水準のレポートを求める。		
授業計画	1. ガイダンス	9. 民俗宗教①東海地域の花祭り	
	2. 日本人の神観念	10. 民俗宗教②中国・四国地域の神楽	
	3. 日本人の神観念と祭祀の構造、時間を中心に	11. 九州、琉球と明清の文化交流	
	4. 日本人の神観念と祭祀の構造、空間を中心に	12. 民俗宗教③琉球地方の民間宗教者	
	5. 神楽、憑依と祭祀	13. ヨーロッパとの交流とかくれキリシタンの歴史・伝承	
	6. 古代宮廷の鎮魂祭祀	14. 日本・東、東南アジア華僑の民俗宗教	
	7. 神話、及び古代宮廷の稲作祭祀	15. まとめ	
	8. 隋唐代の仏教と日本の転輪聖王の思想		
実施場所	歴博 108 (松尾) 研究室	使用言語	日本語
前期・後期の別	前期・後期・通年	対象年次 ③, ④, ⑤	単位数 単位
教科書・参考図書	・松尾恒一『日本の民俗宗教』筑摩書房、2019年 ・松尾恒一、他『日本の民俗,9巻「祭りの快楽」』吉川弘文館 2009年 ・吉川弘文館「日本歴史民俗叢書」、松尾『物部の民俗といざなぎ流』（2011年） ・角川叢書、松尾『儀礼から芸能へ 狂騒・憑依・道化』（角川書店、2011年） ・松尾恒一編『東アジア世界の民俗: 変容する社会・生活・文化』（勉誠出版『アジア遊学』2017年10月）。		

備考

各自の研究テーマに即したフィールドワークに基づく口頭発表、レポートについて、発表に先立って指導を受けること。